

森

の通信



自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/平成18年12月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail: hakubutsukan@pref.miyazaki.lg.jp FAX(0985)24-2199

ひゅうがのくに

しょうはんぶんりつ

「日向国の江戸時代展～小藩分立って何？」

あなたの住んでいるところが、江戸時代に何藩だったか御存知ですか？江戸時代の日向国（宮崎県）は、延岡・高鍋・佐土原・飫肥・鹿児島・人吉の6つの小さな藩領と幕府領（天領ともいう）に分かれていました。これを「小藩分立」といいます。展覧会では、各藩の様子を領地目録など現存する資料を通して、大名家ごとにわかりやすく解説します。また、大名家ゆかりの甲冑や刀剣・調度品など武士の生活ぶりを示す資料に加え、江戸にあった各藩邸の様子や最新の発掘資料も取り上げて日向国の江戸時代を紹介します。そして、今回の目玉は何といっても本県初公開の『耳川合戦図屏風』（158.2cm×466.8cm）の実物です。これは天正6（1578）年に大友氏と島津氏が九州支配をめぐる争った合戦を描いたもので、「日向国の江戸時代」の始まりを物語る資料です。実物の迫力が堪能できます。（中竹）

期日：2007年2月3日（土）～3月18日（日）

休館日：毎週火曜日（2/6、2/13、2/20、2/27、3/6、3/13）

会場：宮崎県総合博物館 特別展示室

観覧料：無料

関連講座

古文書と歴史第3回（近世編）

日時：2007年2月24日（土）午前10時30分から12時まで
場所：宮崎県総合博物館 2階研修室

考古学から見た日向武士の暮らしぶり

日時：2007年3月4日（日）午前10時30分から12時まで
場所：宮崎県総合博物館 2階研修室



『耳川合戦図屏風（部分）』

京都市：相国寺承天閣美術館蔵

第27回 SSP展

～自然の中の不思議を知る2006～

期 日 2006年12月20日（水）～2007年1月21日（日）

会 場 宮崎県総合博物館 特別展示室

主 催 宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

観 覧 料 無料

観覧時間 午前9時～午後5時まで（入館は4時30分まで）

休 館 日 12/26、28～31、1/1～4、9、16（火曜と年末・年始）

身近な鳥や昆虫、動植物をはじめ、水中、天体、自然風景、顕微鏡写真など、多様な自然科学の世界120点の作品を展示します。プロ写真家では海野和男、栗林慧（日本人初、科学写真のノーベル賞受賞）、竹内敏信、中村征夫各氏、県内在住の栗原智昭、東木場昭裕両氏、また全国のアマチュア写真家の方々の作品も一堂に展示します。

この写真展は、今回で27回目となり、宮崎では3年連続の開催となります。今年度は東京を皮切りに、大阪、福岡、香川、京都、宮崎を経て岡山と全国7会場で開催されます。この機会にすばらしい作品の数々をご堪能ください。

日本自然科学写真協会（SSP）とは

<自然>と<科学>の広場に1本のクラブを立て、親睦と情報交流の場をつくるとともに写真教育の助成と高揚を通して、写真文化の向上と発展を願う写真文化団体です。著名なプロ写真家をはじめ、アマチュア写真家、自然科学、写真関係にたずさわる研究者、編集者など多くの方々が参加しています。

《英称 Society of Scientific Photography（略称SSP）》
（串間）



メイタイシガキフグ 磯貝高弘

宮崎の歴史情報

家 紋 「下がり藤」

家紋（かもん）というと、テレビの時代劇番組『水戸黄門』の中に登場する印籠（いんろう）にデザインされた「三葉葵」が有名ですが、この家紋はもちろん将軍家だった徳川氏のものです。歴史展示室に展示中の右の盃（さかずき）に描かれた家紋は、延享四（1747）年から廃藩置県に至るまで延岡藩を支配していた譜代大名、内藤氏（うちだて）の家紋「下がり藤」です。藤原氏の血筋とされる内藤氏は、蔓（つる）が伸びるように一族が繁栄することを願って「藤」の花をアレンジした家紋を使用してきました。藤紋（ふじもん）には「上がり藤」もありますが、内藤氏（うちだて）のものは藤の花房（はなぶさ）が下を向いているのが特徴です。もともと家紋とは、貴族が牛車（ぎっしゃ）や調度品（ちようぶ）につけて自分の持ち物であることを示したものとされていますが、そういった習慣が時代とともに武士や一般庶民（しやうみん）にも広がっていったようです。みなさんのご家庭でも大切な着物（きもの）や漆器類（しやくきるい）、お墓（おぼろ）などに家の目印となる家紋がついているかも知れません。一度何がデザインされているか調べて、その由緒（ゆいしよ）や先祖（せんぞ）の思いなどを考えてみるのも面白いでしょう。



延岡藩主内藤家から下賜された盃（個人蔵）

（中竹）

講座紹介

「県北の縄文時代の海岸線を歩きました」



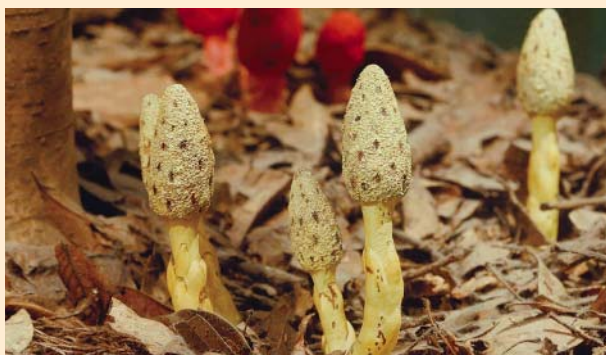
延岡市大貫貝塚での見学の様子

考古部門では毎年「^{たんぼう}遺跡探訪」という講座を行っています。新田原や持田などの古墳を巡ったり、日之影町見立の山道を歩いて旧石器時代の出羽洞穴を探したり、県内各地の遺跡を毎年訪れています。今年は7月にマイクロバスで延岡市の^{おおの}大貫貝塚や^{おきた}沖田貝塚、^{みなみまち}門川町の南町遺跡、日向市の後陣遺跡など県北の縄文遺跡を巡りました。縄文時代の海岸線を復元するためです。縄文時代に入ると気候が温暖になり、海水面が次第に上昇していきます。今の地形で標高がおおよそ10mのラインが当時の海岸線だったと言われています。参加されたみなさんは縄文人が生活した場所に立ち、当時の環境や彼らのくらしぶりに思いを寄せていました。(永友)

常設展示室紹介

キイレツチトリモチ

自然展示室に入ると照葉樹林のジオラマがありますが、その反対側に寄生植物のコーナーがあります。そこにこのキイレツチトリモチが展示してあります。見た感じはキノコのようなのですが、れっきとした花です。葉緑素をもたず、全体はクリーム色をしています。この植物は海岸に生えるトベラやシャリンバイ、ネズミモチに寄生します。発生する時期は11月上旬から12月中旬頃までです。高さは10cm前後です。県内では日南海岸でまれに見かけます。県内の山中では赤い色をしているツチトリモチをよく見かけますが、これらを砕くと鳥もちがとれるのでこの名があります。キイレは鹿児島県の喜入(きいれ)という地名に由来します。県北にはミヤマツチトリモチという種類もあります。(齊藤)



収蔵資料紹介

石膏 (せっこう)

石膏は^{せっこう}硫酸カルシウムの結晶で、化学式で表すと $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ となります。式からわかるように結晶中に主成分として水分子(結晶水)を含んでいます。石膏を加熱すると結晶水がとんで焼石膏になり、白い粉末は幅広い用途をもっています。水を加えると硬化する性質からチョークやギプス、建材、デッサンなどの模型、型取り等に利用されています。

さて、硫酸塩鉱物としては石膏が最も普通に産出し、その産出形態には様々な物があります。本館収蔵の石膏にもいろいろな結晶がありますが、その中からいわゆる「砂漠のバラ」、「群晶」、「巨晶」を紹介します。これらは、かつて湖の中に溶け込んでいたカルシウム分が硫酸塩として結晶化したものと思われませんが、砂漠化した砂の中から見つかる「バラの花」に似た「砂漠のバラ」は特に有名です。なお、石膏のほか重晶石(硫酸バリウム)なども「砂漠のバラ」をつくることがあります。(松田)



アメリカ ニューメキシコ州産
【砂漠のバラ】



メキシコ チワワ州産
【群晶】



【巨晶】メキシコ チワワ州産

サンショウウオの子どもですか？

「用水路で顔の後ろにエラのある生き物を見つけたのですが、サンショウウオの子どもですか？」という質問が、年に1～2回程博物館に寄せられます。電話だけでは区別ができないので、生き物を持ってきていただいたり、写真を送っていただいたりして判断します。その結果、多くの場合がイモリの子ども（幼生）です。

写真の上がイモリ、下がサンショウウオ類の幼生です。イモリの幼生は体の横に側線器（矢印の部分）がはっきりと確認できます。これが区別する1つのポイントです。しかし、両者を並べて見ると違いがはっきりするのですが、慣れないうちはどちらか一方だけ見てもなかなか区別できないものです。もし、エラのある生き物を見つけて、イモリかサンショウウオかを知りたい時は、ぜひ博物館へお問い合わせください。（末吉）



展示解説員の声



博物館には、外国からの旅行者が来られたり、ホームステイ等の外国の学生さんが受け入れ家族の方と来館されることもよくあります。また、県外から帰省されたご家族を連れていらしゃったり、転勤で宮崎に来られた方が赴任地について知りたいといらしゃったりもします。宮崎県総合博物館が、宮崎県の自然・歴史・文化を知ることのできる施設として、大きく期待されていることを強く感じます。

私たち展示解説員も、宮崎県の素晴らしさを県内外にアピールできるよう、日々がんばっています。皆さまにもぜひ博物館で郷土宮崎の良さを再発見していただきたいと思っています。スタッフ一同、ご来館お待ちしております。

（展示解説員：秋月）

お知らせ

* 臨時休館のお知らせ

以下の期間は、常設展示場のメンテナンスのため臨時休館となります。

平成19年1月22日(月)～1月24日(水)

* 常設展は無料です。

常設展観覧料が平成17年4月から無料になりました。休館日は毎週火曜日です。



触察体験講座～民家園～



バードウォッチング

* これからの講座のご案内

12月 9日(土) 歴史 古文書と歴史第2回(中世編)
14日(木) 民俗 触察体験講座～民家園～

2月 3日(土) 動物 バードウォッチング
24日(土) 歴史 古文書と歴史第3回(近世編)

3月 4日(日) 考古 考古学から見た日向武士の暮らし

* 講座の日程は変更になる場合がありますので、事前にお問い合わせください。各講座、申し込みが必要です。